



最近、全国各地で取り組まれている、ごみ対策や脱炭素化。ニュースやインターネットで耳にしたり、目にする機会も増えました。では、この町に住む私たちにできることは何があるのでしょうか。このシリーズでは、ごみ対策や脱炭素化に関連した身近な話題をご紹介します。「ごみのこととか、脱炭素化とか…」みんなで楽しく考えてみましょう。

連載第8回目のテーマは「ファッションから見る環境問題」。まだまだ暑い時期が続いていますが、暦の上で9月は「秋」。涼しくなる時期の衣替えを前に、今回は持続可能なファッション、サステナブルファッションについて考えます。

ファッションから見る環境問題

問 資源循環担当
34・1111 内線292

2-15



サステナブルファッションとは？

衣服の生産から着用、廃棄に至るプロセスにおいて将来にわたり、持続可能であることを目指し、生態系を含む地球環境や、関わる人・社会に配慮していく取り組みのことです。



日本の家庭から焼却・埋立される服は年間約48万t

1日平均 約 1,300t



大型トラック

× 約 **130** 台分



服1着の原材料の調達から製造段階までのCO₂排出量と水消費量

CO₂排出量 約 25.5kg

水消費量 約 2,300ℓ



500ml
ペットボトル

× 約 **255** 本分



浴槽

× 約 **11** 杯分

このように、服の廃棄や製造には環境に大きな負荷がかかっています。

私たちがこれから環境のために取り組めること、意識することは何か…。次で紹介します。

Let's Try!!



みんなでやろう！ 5つのアクション

1

持っている服を長く大切に着よう

適切なケアや、お直しをするなどの工夫で1着の服を長く着ることが出来ます。

2

リユース（再利用）でファッションを楽しもう

身近な家族や友人の他にも、フリマアプリや回収サービスを活用すると再利用の幅が広がります。

3

先のことを考えて購入しよう

1年に1度も袖を通さない服はありませんか。そんな“もったいない”をつくらないために、よく考えて購入しましょう。

4

衣服の作られ方に目を向けてみよう

商品のタグには、その商品に関する情報が付いており、いわば作り手からの説明書といえます。例えば、「リサイクルコットン」や「リサイクルポリエステル」と表示があれば、商品の製造工程の一部が不要となり、その分環境負荷が少ない商品であることを意味しています。

5

服を資源として再活用しよう

古着回収を行っているお店に持ち込めばリサイクルに積極的なお店の支援になります。また、久喜宮代衛生組合では布・衣類は資源物として回収し、服の再資源化をおこなっています。

さらにもう一步！ 自分の服が地域への貢献に！

衣類のリユースから子育てコミュニティ広がる『おかねのいらないおたから市』

不用品を持ち寄り、それぞれが欲しいものをもらう無料のフリーマーケットです。運営は「ふさや」宍戸さんをはじめとするボランティアの皆さん。不用品のリユースを通して、孤独になりやすい子育て中の親子の居場所作りを目的に、すてっぴ宮代で開催しています。その他、すてっぴ宮代キッズスペース内に常設コーナーもあり、子どもと遊びながら自由に欲しいものをもらうことができます。（出品はおたから市開催日のみ）

子どもが大きくなってサイズの合わなくなった服などをリユースして、地域みんなで循環させましょう！
次回開催は、9月20日(火)10時～12時。おたから市への参加をお待ちしています♪

おかねのいらない
おたから市



LINE ホームページ

おかねの
いらない
おたから市



すてっぴ宮代 キッズスペース内
常設コーナー

放課後駄菓子屋
ふさや 店主
宍戸さん